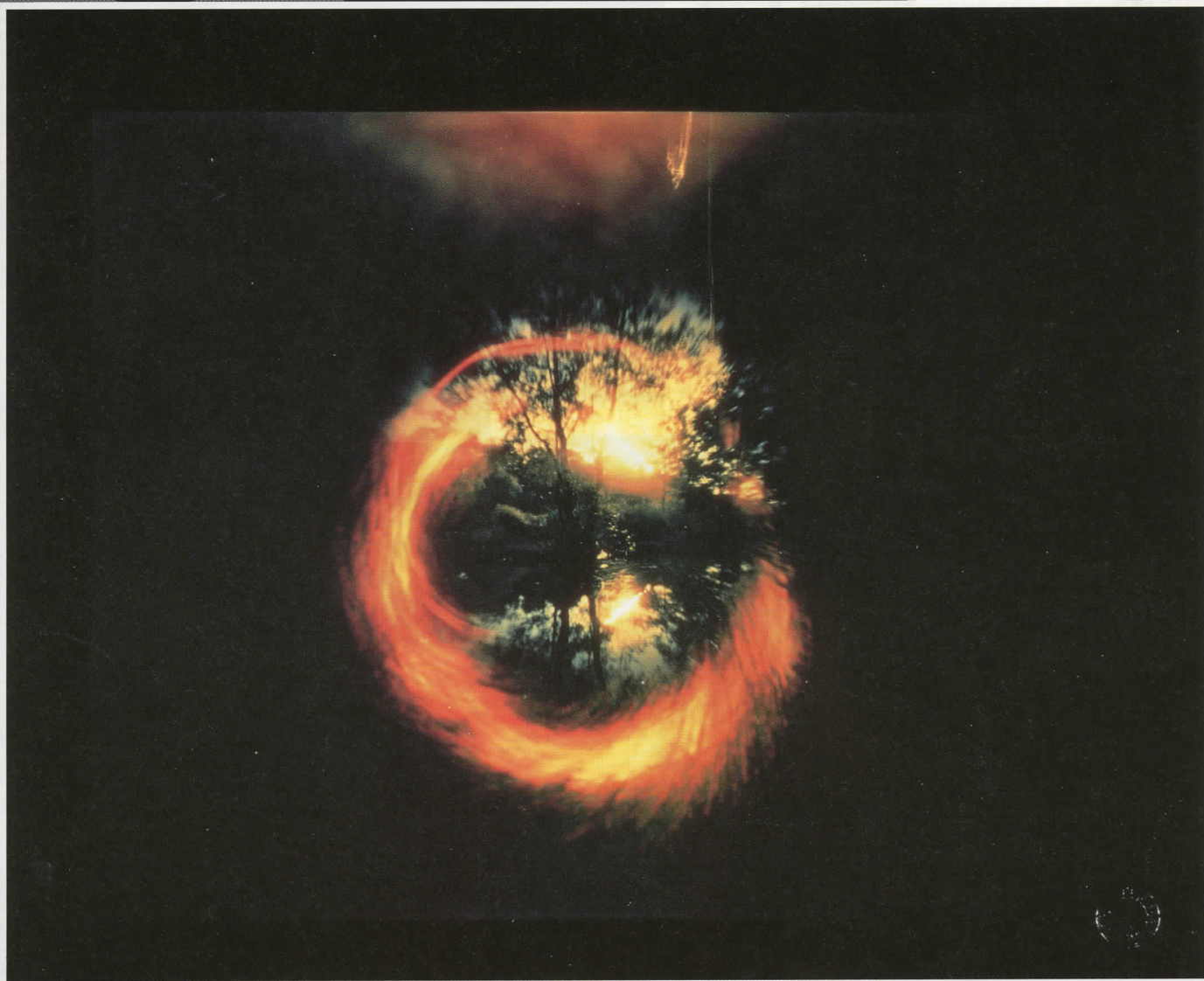


高松市美術館

コレクション展

—現代アートがとらえた世界—



山中信夫「東京の太陽(56)」1982

1996 7.3 [WED] ▶ 14 [SUN]

開館 / 午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで) 月曜日休館
金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)

入場料 / 一般400円 高大生200円 小中生100円

- 前売りおよび団体20名様以上は2割引
- 高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳または療育手帳所持者は無料
- 第2土曜日は小・中・高生無料

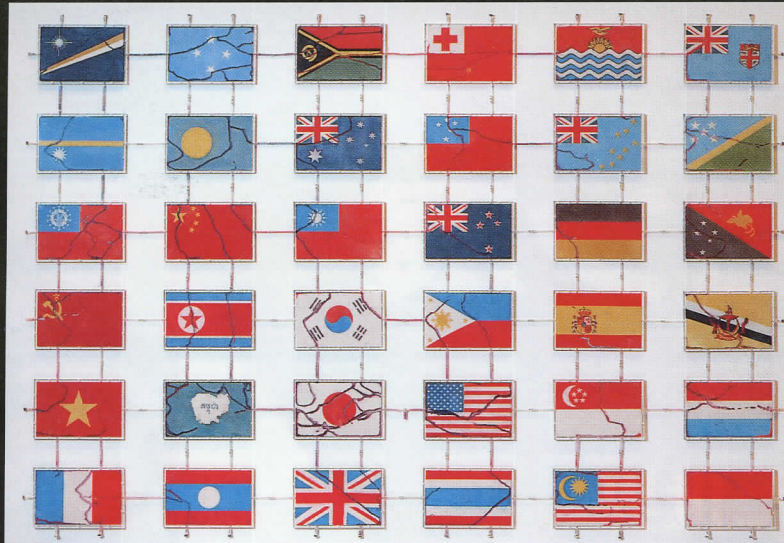
第12回 国民文化祭・かがわ'97
平成9年10月25日(土) ▶ 11月3日(月)

交流と創造 光と海と祈り

高松市美術館

高松市紺屋町10-4
☎0878(23)1711

主催/高松市美術館

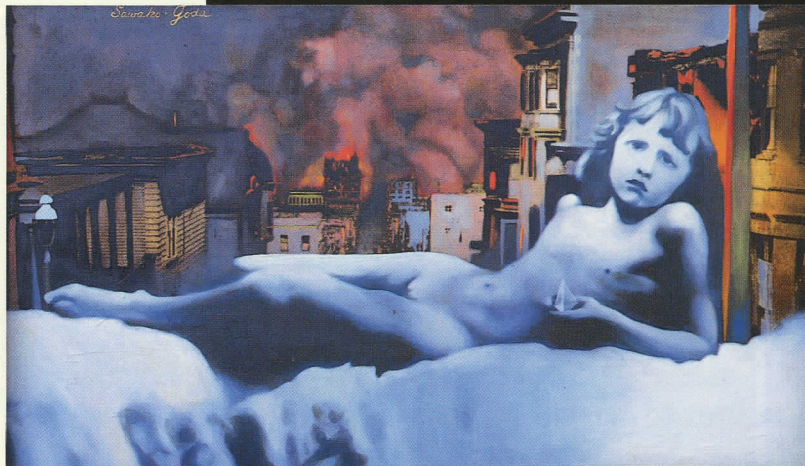


柳 幸典「アジア・パシフィック・アント・ファーム」1994

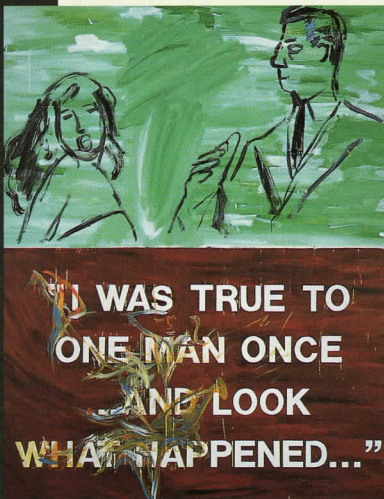


タイガー立石「哀愁列車」1964

この展覧会では、高松市美術館のコレクションの中から、第二次大戦後に行われた日本の美術家の仕事を紹介します。美術作品とは美術館に飾られている何か高尚なものと考えられがちですが、美術は、政治や経済といった人間の日常の社会生活と切り離されたところから生み出されるものではなく、むしろ、現実の制度の中に生きている美術家たちのぎりぎりの冒険であるといえるでしょう。日本においても、敗戦から半世紀という時間の中で実に多くの試みがなされてきました。一見して多種多様な印象を受けるそれらの作品はしかし、それぞれの美術家がどのようにこの世界を捉えてきたかという具体的な証であることでは共通しています。彼らや彼女たちの視線は、たとえば社会や文化のあり様、テクノロジーとの関係、あるいは「美術」という制度そのものに向けられており、ここでは、現実の描写にはとどまらない、いわば個人によってとらえられ再構築された世界のイメージが示されます。異なる地域や時代に生まれた作品に接することと同様に、私たちと同じ空気を吸った作品たちをあらためて経験することは、それに向き合う人間の知覚や思考をさらに押し広げることとなるでしょう。



合田佐和子「燃える街」1973



横尾忠則「うまい作り話」1982

次回展覧会のお知らせ

手塚治虫展

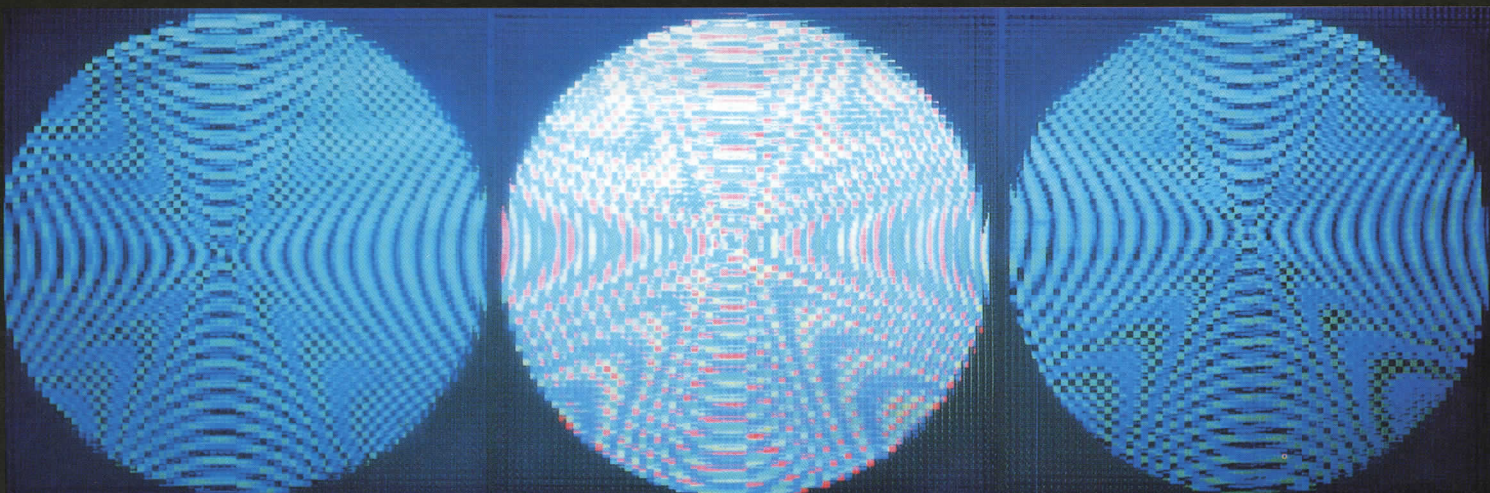
過去と未来のイメージ

8月6日(火)～9月8日(日)

第2期常設展のお知らせ

展示室1
「前衛陶芸の楽しみ」

展示室2
「彫漆の美」
6月29日(土)～9月8日(日)



山本圭吾「別世界への旅」1968